

はじめに

- 急速な少子高齢化や国際的にも類を見ない深刻な財政状況の中で、国立大学の主体的な改革の基本的な考え方を示した「地域と国の発展を支え、世界をリードする国立大学！！」(声明)を昨年12月に公表
- 国立大学に求められる使命を今後とも遂行していくため、主体的な取組の方向性と工程表を明らかにし、それを後押しする予算、制度面での国に対する要請を行う責任を自覚し、国立大学が自らの将来ビジョンに基づく具体的なアクションプランを策定する必要

国立大学の基本機能の維持向上

<基本機能>

- 全都道府県に設置され、地域や経済条件にかかわらず高度な学びの場を提供
- 次代を切り拓く研究成果の創出
- 我が国の均衡ある総合的な発展への貢献

<基本機能を果たしていくための具体的な取組>

-基盤的経費の確実な措置が不可欠-

- 国力を支え発展させる多様な知の創造と継承
- 社会還元につなげる応用研究の推進とイノベーション創出の牽引
- 全国及び各地域における良質な雇用の創出

ポイント1: 優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備

- 多様なニーズに応える教育研究の質の向上
(例)科目ナンバリングなど国際通用性のある教育システムへの改革と個性豊かな教育コンテンツの充実
- 確かな学力とともに多様な資質を持った高等学校・高等専門学校卒業者の受入
(例)入試改革の推進と推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の拡大
- 優れた外国人留学生の積極的な受入及び日本人学生の海外派遣の拡大
(例)英語で学位取得可能な課程の整備など留学生の教育環境の充実と海外大学とのダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムの推進による日本人学生の国際性の向上
- 女子学生及び女性教員の受入環境の整備
(例)ライフイベントとの両立支援体制の強化等による女性比率の向上
- 留学生及び若者を地域に引き寄せ地域創生に貢献
(例)地方自治体・産業界との連携と支援による教育研究の推進
- 学び直しを求める社会人の積極的な受入
(例)社会人の学び直しニーズに応じた教育プログラムの開発・実施と入学者選抜方法の工夫

ポイント2: 大学間等の機能的な連携・共同による教育研究水準の向上

- 大学間等の連携・共同による教育の推進
(例)他大学等との連携・共同による教育の相互補完(教育コンテンツの互換性及び教養科目の標準化の推進)
- 大学間等の連携・共同によるネットワーク形成による研究の推進
(例)他大学・研究機関と連携・共同、資源の共有によりネットワークを形成し、世界をリードする研究の推進
- 学生、研究者の高い流動性の確保
(例)年俸制やクロスアポイントメント制の活用、テニュアトラック制の導入・定着など大学等間の高い流動性を確保し魅力あるキャリアパスの提供



基本機能とポイント1~2に係る財政措置及び制度改革の在り方

○国立大学がポイント1~2の取組を主体的かつ着実に実行していく上で、国にはこれらを支える制度・環境の整備と支援を要請 特に教育研究経費の配分は、教育研究の多様性、長期的な視野、自由な発想等の重要性に鑑み、次の基本的な考え方に基づくべき

- ①基盤的な教育経費は安定的な運営費交付金で保証（これ以上の削減は行わない）
- ②基盤的な研究や研究者の独自性の高い研究も運営費交付金で安定的に措置
- ③大学・研究組織の連携・共同で展開する研究・教育は、運営費交付金と競争的資金を一体的に活用できるよう柔軟かつ競争的に支援
- ④研究者の自由な発想によるボトムアップ研究は、文部科学省科学研究費補助金で支援
- ⑤社会ニーズに対応する各省庁の研究費は、相互の関連性を整理した上で競争性に基づいた方法により配分

○各種の規制緩和を含む次の制度面の改革も重要

- ①長期的な資金計画に基づき戦略的に教育研究投資を行うための環境整備（目的積立金制度の柔軟化及び資金運用の弾力化）
- ②財源の多様化（寄附金確保に向けた税制面の環境整備など）
- ③優れた留学生を受け入れるための環境整備（学位取得後の在留許可の簡素化・弾力化など）



将来の動向を踏まえたさらなる組織再編等による 国立大学の構造改革に向けて

○構造改革の基本的な観点と進め方

- ◇高いレベルの知的基盤を支える一定数の知的人口を持続的に生み出す高等教育の体制と環境を維持するため、国立大学はこれまで以上に使命を重く受けとめ将来を見通した改革を推進
- ◇当面は、これまで築いてきた国立大学の機能を最大限活用し、各大学が独自に又は連携して自己変革を推進
- ◇将来とも国立大学の教育水準を維持し、世界をリードする研究を推進して我が国の成長発展を支える観点からは、組織の数や規模、学生数などにも踏み込んだ大胆な組織再編等の必要性・可能性も視野に入れておく必要（十分な期間にわたり、地方自治体・産業界等との調整を図りつつ、人事面・財政面等の周到な準備を計画的に進めることが不可欠）
- ◇工程表に示すとおり、各大学の主体的な判断に基づき、ポイント1~2を着実に実行しつつ、国立大学を取り巻く諸般の状況を見定めて、具体的な組織再編等の構造改革の在り方を検討し、経時的に積極的に改革に着手
- ◇国立大学は我が国の高等教育全体の質の向上や公私立大学等を含むネットワーク作りにも責任を有しており、国立大学の組織再編等においては、高等教育のグランドデザイン（公私立大学を含む高等教育全体の適正な規模、各高等教育機関の機能）を各方面の幅広い関係者による議論に基づき描くことが必須

○構造改革の方向性（国立大学の将来像）

（1）国立大学は地域の拠点として不可欠な存在（地域の発展に貢献する「知」の拠点としての役割の増大を踏まえた構造改革の主要な視点・方向性）

- ①地域の多くの優れた若者を引き寄せ、地域で活躍する人材を育成
- ②地域に大きな経済効果をもたらし、地域の強みを活かしたイノベーション・新たな産業シーズの創出、産業の変化に対応した社会人の学び直しの場の提供
- ③地域が直面する問題へ積極的に関わり、学術の観点から解決や取組のための知見の提供、新たな研究課題と解決への道の提供
- ④「グローバル化」を牽引し、地域の若者や企業を世界につなぎ、さらに留学生の受け入れ、地域への定着の促進により地域社会や産業の国際化を促進
- ⑤「ソフトパワー」の源泉である地域の多様な文化を継承・発展させ、国内のみならず世界に発信
- ⑥地域の医療・福祉人材の育成及び地域医療の最後の砦として高度先進医療を提供

◇国立大学のこれまでの取組の検証と反省を踏まえ、「今、必要な地域性とは何か」を問い直し、それを踏まえた貢献の在り方を考慮した構造改革への取り組みを行う

（2）資源の最大有効活用による国立大学の諸機能の一層の向上（教育・研究・社会貢献の諸機能の一層の強化及びこれらを支える経営・財政の視点からの構造改革の主要な視点・方向性）

- ①教育…他大学等と連携・共同して充実した教育内容の確保、近隣の複数大学間の連携や役割分担による学部・研究科の編制・学生定員の検討、大学の特性等に応じた学部・研究科の学生定員の再配分も検討し、実行
学生の流動性を高め、学内外の教育プログラムを複数経験して、学修内容・経験を豊富にできる方策を検討し、実行
- ②研究…世界をリードする研究を推進するため、資源の共有と研究者の流動性を確保し、資源の最大限の活用による研究力の強化・向上、産業界の研究開発投資を呼び込み、双方メリットのある共同研究システムの構築を検討し、実行
- ③社会貢献…地域の産業創出、文化創造、先進的医療等の拠点として地方自治体・産業界と協働して人材育成、イノベーション、国際性の向上などに貢献
- ④経営の効率化…教育研究面の機能的連携や人事給与システムの改革により効率的な業務運営を推進するとともに、複数大学の経営面の連携により一層の効率化や資源再配分などのメリットを生み出す方策についても検討し、実行
- ⑤財政…多様な財源確保に努める（寄附金等の外部資金の獲得、保有資産の活用、正規課程以外の教育サービスの収入源化など）とともに、授業料の在り方について、教育の機会均等の観点から、我が国全体及び地域の経済状況、分野の特性等を踏まえ、奨学金などの学生支援方策と併せて検討

◇国立大学は、限られた資源を最大限に有効活用しつつ、教育・研究・社会貢献の諸機能の質を向上させる観点から、資源とサービスのバランスを勘案し、かつ高等教育のグランドデザインの必要性を踏まえ、存在意義の最大化を目指し将来の構造改革の全体像を構築

（3）我が国全体の高等教育のグランドデザインの必要性

- ◇国立大学の構造改革は、我が国高等教育機関全体のあるべき規模や質の確保、各高等教育機関の機能・役割等について、我が国が知識基盤社会における国際的な存在感を保持するための将来像を踏まえて議論を深めていくことが重要
- ◇国公私全体がネットワーク（強みの共有と相互補完、教員・学生の流動性の向上）を構築することも重要で、国立大学にはその核としての機能を果たすことが求められている。
- ◇そのため、国立大学の将来の構造改革に向けては、各方面の幅広い関係者の議論を経た我が国高等教育のグランドデザインが不可欠であり、国立大学は重要なステークホルダーとして、このような議論を先導する。